

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	コミュニティバス運行助成事業	会計	款	項	目	多額
		一般	8	4	1	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	都市計画課			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	佐瀬 功			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成24年度の取り組み結果を、ホームページ等で概要を公表するとともに、庁内関係各課における情報共有を行い、コミュニティバスのあり方や、利用者の利便性向上の検討に活用する。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	利用者の現状把握と多様な市民ニーズを明確にし、利用者拡大へ向けた検討を行っていく必要がある。
②①に基づく取り組み結果	アンケート結果をホームページで公表し、結果は今後のコミュニティバスのあり方や、利用者の利便性向上の検討を行うための判断材料の一つとした。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	高齢者を中心とした公共施設等の移動手段の確保	意図(対象をどうするのか)	市内各所に点在する公共施設の利用促進と、子供や高齢者等を中心とした交通手段の確保としている
②事務事業の概要	市内に点在する公共施設等の利用について、子供や高齢者等の交通手段の無い方々の足として、地域活動や生涯学習活動などへの参加促進を図ることを目的として運行するコミュニティバスの運行経費を助成する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	高齢化の進展により、公共施設の利用と買い物の足としての商用利用などニーズの多様化により需要は伸びるものと予想される。また運行車両が13年を超過し、老朽化による車両の買い替え時期を迎えている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	コミュニティバスの運行を行っている「船橋新京成バス」「ちばレインボーバス」「鎌ヶ谷観光バス」に対して運行補助を行った。また、平成25年度の総利用者数は78,036人であった。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年	平成24年	平成25年	単位	算定根拠
	i	コミュニティバス利用者数	73,129	76,014	78,036	人	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算		
事業費(千円)	19,906	19,976	金額(千円)	内容	20,230		
	国支出金(千円)		19,850	バス運行補助金			
	県支出金(千円)						
	市債その他(千円)						
	一般財源(千円)	19,906	19,976		20,230		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	利用者の現状把握と多様な市民ニーズを明確にし、利用者拡大と公共交通としてのコミュニティバスのあり方が課題					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	1低い		
③上記評価の理由	現在、コスト的には低いと考えるが、高齢化社会の対応として、地域活動や生涯学習などの参加からコミュニティバスの運行は必要不可欠である					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	補助金支出等 20,000千円	平成25年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	20,000	20,000	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	補助金支出等 19,976千円	20,000	20,000	当初	20,000	19,976	H24からの繰越	0
				H24⇒25繰越	0		現年分	19,976
③達成状況	完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0			
				平成26年度への繰越額(単位:千円)				

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	北総鉄道運賃助成事業	会計	款	項	目	多額
		一般	8	4	1	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	都市計画課			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	佐瀬 功			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	引き続き、沿線の地域活性化の活動と、補助金に対する検証等を県及び関係6市と確認していく。	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	助成期間が、合意書により平成26年度までとなっている。今後、これまで行った助成について関係団体と検証していく。
②①に基づく取り組み結果	補助に対する効果を求めていくとともに、関係団体で北総線沿線の活性化が図られるよう地域活動等のPR等を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	北総鉄道(京成高砂～印旛日本医大間)の運賃	意図(対象をどうするのか)	普通運賃5%弱、通学定期運賃25%、通勤定期運賃1%強の値下げ
②事務事業の概要	北総鉄道の運賃を値下げすることを目的として、値下げによる減収分を鉄道事業者、千葉県及び近隣6市で平成22年度から5年間補てんする。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	助成期間が合意書により平成26年度迄となっており、平成27年度からの運賃補助は、行わないこととなった。これに伴い通学定期を除き、これまで行われた値下げが実施されないこととなった。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	千葉県及び近隣6市において、年総額300,000千円を補てんすることにより平均4.6%値下げしている。					
②成果を表す指標	指標名称		平成23年	平成24年	平成25年	算定根拠
	i	補助金支払割合	36	57	78	% 業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算	
事業費(千円)	9,000	9,000	金額(千円)	内容	9,000	
	国支出金(千円)		9,000	運賃助成事業補助金		
	県支出金(千円)					
	市債その他(千円)					
	一般財源(千円)	9,000	9,000		9,000	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	平成27年度からの補助は、県・関係6市の中で行わないこととなった。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	県・関係6市で締結した合意書は平成22年度から平成26年度までの5年間としている。なお、補助の目的は運賃値下げに相当する額を補助することであり、補助に対する効果を検証しなければならない。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	補助金支出	平成25年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	運賃値下のため、補助金を支出した(9,000千円)。	9,000	9,000	当初	9,000	9,000	H24からの繰越	0
				H24⇒25繰越	0		現年分	9,000
③達成状況	完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0			
				平成26年度への繰越額(単位:千円)		0		

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	景観形成基本計画策定事業	会計	款	項	目	多額
		一般	8	4	1	○
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	担当課室	都市計画課			
施策	314鎌ヶ谷市の魅力あふれるまち並みづくり	担当課室長	佐瀬 功			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	昨年度に引き続き、景観計画の策定にあたっては、市民の意見が反映できる体制と、広報や市ホームページを通じ情報発信を行う。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	景観条例を制定し、景観計画、条例の理解を深めるための景観ガイドラインを策定すること。
②①に基づく取組み結果	景観計画のパブリックコメントを実施し、景観計画を策定した		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	魅力あふれるまち並みづくりのための計画策定、良好な景観形成の実現に向けて、市民・事業者・行政の役割を明確にする。	意図(対象をどうするのか)	対象者が生垣や樹木等の緑化、建物、工作物等の意匠形態に配慮し魅力あふれるまち並みづくりを行う。
②事務事業の概要	鎌ヶ谷市の目指すべき景観について、実態を把握し魅力あるまちづくりを推進するべく、基本となる景観について検討を行いながら計画を策定する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	市民の景観に対する関心度が高い傾向にあり、景観特性を活かした魅力あるまちづくりが求められる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	計画の素案(たたき台)を基に、学識者及び関係団体並びに市民の代表等による景観形成基本計画策定委員会で議論を行った。策定委員会は市民等の意見を反映した計画を策定した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年	平成24年	平成25年	単位	算定根拠
	i	景観計画の策定	-	-	1	策定	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算		
事業費(千円)	82	4,880	金額(千円)	内容	0		
国支出金(千円)			4,805	景観形成基本計画策定委託			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	82	4,880			0		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	景観条例を制定し、景観計画、条例の理解を深めるための景観ガイドラインを策定すること。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	景観計画を策定し平成26年3月20日に告示した。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	景観計画の策定	平成25年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	景観計画を策定した	4,926	4,926	当初	0	4,880	H24からの繰越	4,880
				H24⇒25繰越	4,926			
③達成状況	完了			補正	0		現年分	0
④未完了・非着手の理由		平成26年度への繰越額(単位:千円)						

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	新鎌ヶ谷地区広域交流拠点形成推進に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	2	
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	担当課室	都市計画課			
施策	311広域交流拠点の整備	担当課室長	大塚 勝彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	市民・企業を主体とした新たなまちづくり組織の、正式な立上げを支援する。組織立上げ後も支援を継続し、魅力ある広域交流拠点の形成を目指して連携しながら、新たな施策の検討、実施をしていく。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	地元自治会との連携強化等を通し、地域のまちづくり活動の活性化を図りながら、引き続き、まちづくり組織の立上げを支援する。
②①に基づく取組み結果	まちづくり組織立上げに向けた検討会議を実施し、現状の課題、今後の方向性について議論した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	新鎌ヶ谷センター地区	意図(対象をどうするのか)	新鎌ヶ谷センター地区に広域交流拠点機能の集積を図るため、商業業務施設の誘致や地区の賑わいづくりの支援、まちづくりの組織化に対する支援を行う
②事務事業の概要	新鎌ヶ谷地区については、都市再生機構が平成7年3月から特定土地区画整理事業を行っており、都市再生機構が主にハード面での都市基盤の整備、市が主にソフト面でのまちづくりといった役割分担により事業を進めている。なお、平成25年度をもって、都市再生機構による土地区画整理事業は完了した。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	H25年度をもって区画整理事業は完了したが、同地区を市の顔となる広域交流拠点として形成するためには、更なる商業・業務・文化・娯楽等の都市機能集積が必要である。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	新鎌ヶ谷地区まちづくり懇談会事業の中で策定した『新鎌ヶ谷地区まちづくり方策』に基づき、新鎌ヶ谷地区の賑わいを創出するため、地域住民等との協働による継続的なまちづくり活動を実施した。また、市民及び企業を主体とした新規まちづくり組織の立上げに向け、検討会議を実施した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	新鎌ヶ谷駅乗降客数	89,863	93,088	調査中	人/日	業務取得
	ii	新鎌ヶ谷地区事業所数	212	225	236	件	業務取得
	iii	センター地区有効利用面積	6.7	6.8	6.9	ha	業務取得
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	24,073	25,231	金額(千円)	内容		27,289	
国支出金(千円)			1,985	新鎌ヶ谷地区にぎわいづくり事業委託			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)	19,674	20,580				20,582	
一般財源(千円)	4,399	4,651				6,707	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	まちづくり組織の立上げに向けて、各関係者との調整を進めている					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	賑わいのある広域交流拠点形成のため、地域のまちづくりに対する意識の醸成や、更なる活動活性化に向けた支援が必要である					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H24からの繰越	
		H24⇒25繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由						
	平成26年度への繰越額(単位:千円)					

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	都市軸形成促進事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	2	○
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	担当課室	都市計画課			
施策	313質の高い既成市街地の整備	担当課室長	大塚 勝彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	協働で作成した構想における事業を関係機関と調整し、コスト縮減を図りながら実施する。また、整備完了後の地域活性化に繋げる方策を検討する。	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	【東鎌西口】国庫補助事業により道路の整備を完了させると共に、ポケットパークの整備も完了させる。また、整備完了後の地域活性化に繋げる方策を検討する。 【初富】関係機関と調整しながら概略設計を完成させる。
②①に基づく取り組み結果	【東鎌西口】関係機関と調整しながら電線類地中化工事を完了させ、道路整備工事に着手した。 【初富】関係機関と調整を図り、概略設計に着手した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	【東鎌西口】くらしのみちゾーン区域 【初富】初富駅前広場及びアクセス道路	意図(対象をどうするのか)	【東鎌西口】誰もが安心して歩くことができ、賑わいに満ちた中心市街地の形成を図る。 【初富】新京成線連続立体交差事業に合わせた駅前広場及びアクセス道路の整備を行う。
②事務事業の概要	都市軸の一翼を担う鎌ヶ谷駅西口周辺地区の無秩序な市街化に対処し、都市基盤整備の必要性、緊急性を明らかにし、計画的な市街地の形成を図るため、鎌ヶ谷駅西口地区を国土交通省の施策である「くらしのみちゾーン」に登録し、事業等を地元とともに推進している。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	【東鎌西口】ハード面の整備を進めている中で、ソフト面での地域活性化を推進させる必要があるが、地元関係者が高齢化している。 【初富】新京成線連続立体交差事業に合わせた整備を行うため、連立事業の進捗状況を見据えた調整が必要である。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	鎌ヶ谷駅西口地区については、地元ワークショップにおいて策定した整備構想に基づき、平成18年度までに整備計画を策定している。平成25年度は、市道30・3688号線における電線地中化工事委託の実施と市道30号線内における物件補償を実施した。また、初富駅前広場整備実施に要する駅周辺の現況測量を実施した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	道路整備着手延長(東鎌西口)	0	0	300	m	業務取得
	ii	用地取得面積(初富)	1,268	1,279	0	m ²	業務取得
	iii	鎌ヶ谷市を住みよいと答えた市民割合	-	-	52	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算		
事業費(千円)	353,338	103,644	金額(千円)	内容	128,459		
国支出金(千円)	60,500	52,800	99,062	電線地中化工事委託	47,850		
県支出金(千円)	0	0	1,680	初富駅周辺現況測量委託	0		
市債その他(千円)	273,200	46,200			35,100		
一般財源(千円)	19,638	4,644			45,509		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	【東鎌西口】ソフト面での地域活性化推進に向けて、地元との調整が必要である。 【初富】関係機関(連立事業者、道路管理者、警察)や関係地権者との調整が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	【東鎌西口】ソフト面での地域活性化推進に向けて、更なる検討が必要である。 【初富】新京成線連続立体交差事業に合わせて駅利用者の利便性や安全性を向上させるため、駅前広場及びアクセス道路の整備を促進する必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	【東鎌西口】電線類地中化工事委託(引込・連系)、道路・駅広整備工事、照明灯補償 【初富】現況測量委託、概略設計委託						平成25年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額						
②計画に対する事業実績	183,750	184,804	当初	180,406	103,644	H24からの繰越	99,062			
			H24⇒25繰越	100,000						
③達成状況	未完了		補正	-96,656	現年分		4,582			
④未完了・非着手の理由	【東鎌西口】電線類地中化工事委託(引込・連系)の遅延に伴い、道路整備工事を繰越したため。 【初富】関係機関との協議に不測の時間を要し、概略設計委託を繰越したため。		流用・充当	1,054						
			平成26年度への繰越額(単位:千円)				77,858			

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	新鎌ヶ谷駅周辺地区市街地整備促進事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	2	○
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	担当課室	都市計画課			
施策	311広域交流拠点の整備	担当課室長	大塚 勝彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価の掲げた内容	平成24年度における実施事業は無いため、評価無し	③平成26年度に取組む改革・改善内容	土地利用方策策定の後、具体的な土地利用推進のための業務に取り組んでゆく。
②①に基づく取組み結果	上記理由の為、①に基づく取組みは無し		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	新鎌ヶ谷駅周辺地区	意図(対象をどうするのか)	地区の回遊性の確保や利便性の向上
②事務事業の概要	新鎌ヶ谷駅周辺地区について、総合基本計画に位置付けられている魅力と活気にあふれた鎌ヶ谷市の新たな中心市街地としての形成を図るため事業等を推進している。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	東京10号線延伸新線の事業化の検討中止や、新京成線連続立体交差事業の進捗に伴い、新鎌ヶ谷駅周辺地区における土地利用の形態に大きな変化が見込まれる時期であるため、上記事業への取組みが非常に重要である。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	新鎌ヶ谷駅周辺地区の回遊性の確保や利便性の向上のため、新鎌ヶ谷地区中街区歩行者専用通路用地の取得のための不動産鑑定を実施した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	新鎌ヶ谷駅乗降客数	89,863	93,088	調査中	人/日	業務取得
	ii	新鎌ヶ谷地区事業所数	212	225	236	件	業務取得
	iii	新鎌ヶ谷地区市街地整備促進事業進捗率	16	16	17	%	業務取得
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	0	190	金額(千円)	内容		80,515	
国支出金(千円)			190	新鎌ヶ谷地区中街区歩行者専用通路用地購入に係る不動産鑑定			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)						21,800	
一般財源(千円)	0	190				58,715	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	地区の土地利用方策策定に向け、土地利用調査業務を実施中。方策をもとに土地利用の推進を図ってゆく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	新京成線高架化事業完了を見据え、鎌ヶ谷市の顔となる同地区の市街地形成の更なる促進が必要である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	地区内における土地利用調査	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	新鎌ヶ谷駅周辺土地利用調査業務への着手 中街区歩行者専用通路用地購入に係る不動産鑑定終了	5,000	5,000	当初	5,000	190	H24からの繰越
				H24⇒25繰越			
③達成状況	未完了			補正			現年分
④未完了・非着手の理由	土地利用調査に係る追加データ収集に不足の時間を要することとなったため	平成26年度への繰越額(単位:千円)				4,515	

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	近隣商業拠点整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	2	〇
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	担当課室	都市計画課			
施策	313質の高い既成市街地の整備	担当課室長	大塚 勝彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	新規	③平成26年度に取組む改革・改善内容	関係機関(連立事業者、道路管理者、警察)と調整しながら概略設計を完成させると共に、関係地権者との調整を行う。
②①に基づく取組み結果	新規		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	北初富駅周辺	意図(対象をどうするのか)	新京成線連続立体交差事業に合わせた駅前広場等の整備を行う。
②事務事業の概要	近隣商業拠点の一つである北初富地区については、市民の日常生活に身近な商業等のサービス機能の充実を目指し、駅前広場等の整備に向け事業を推進している。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新京成線連続立体交差事業に合わせた整備を行うため、連立事業の進捗状況を見据えた調整が必要である。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	北初富地区については、地元懇談会において策定した整備構想に基づき、平成18年度に「北初富駅周辺地区整備構想」を策定している。平成25年度は、北初富駅前広場整備実施に要する駅周辺の現況測量を実施した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	事業着手箇所数	0	0	0	箇所	業務取得
	ii	鎌ヶ谷市を住みよいと答えた市民割合	-	-	52	%	市民意識調査
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算		
事業費(千円)	0	492	金額(千円)	内容	1,787		
国支出金(千円)	0	0	492	北初富駅周辺現況測量委託	0		
県支出金(千円)	0	0			0		
市債その他(千円)	0	0			0		
一般財源(千円)	0	492			1,787		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	関係機関(連立事業者、道路管理者、警察)や関係地権者との調整が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	新京成線連続立体交差事業に合わせて駅利用者の利便性や安全性を向上させるため、駅前広場等の整備を促進する必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	現況測量委託の実施	平成25年度事業費の状況(単位:千円)						
	概略設計委託の実施	計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	現況測量委託は完了	3,500	2,865	当初	3,500	492	H24からの繰越	0
	概略設計委託は着手			H24⇒25繰越	0		現年分	492
③達成状況	未完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由	関係機関との協議に不測の時間を要し、概略設計委託を繰越したため。			流用・充当	-635			
				平成26年度への繰越額(単位:千円)		1,486		